

⑩ ホオジロ (ホオジロ科)

ア 対象種

ホオジロ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) から ホジロ、ホージロ
- ・ 鳴き声から チンチロ、チンチロドリ、チンチロリン
- ・ その他 イチバンコ、ニバンコ



エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの林や畑地などで見かけられる留鳥であり、当時は郡内全集落に生息した。頬の部分の白みがあった特徴とともに、きれいな鳴き声をあげる身近な小鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「ホジロ」や「チンチロ」をはじめ計7種を採録した。

郡内全域で「ホジロ」と伸ばさずに呼ばれたほか、加太地区や坂下地区を除ききれいな鳴き声に由来し「チンチロ」とも呼ばれた。

その他、鳥をよく捕る人々の間では、巣立ちの回数順によって「イチバンコ」や「ニバンコ」と呼ばれる場合があったという。

オ 聞きなし

多くの集落で多くの聞きなしを採録した。

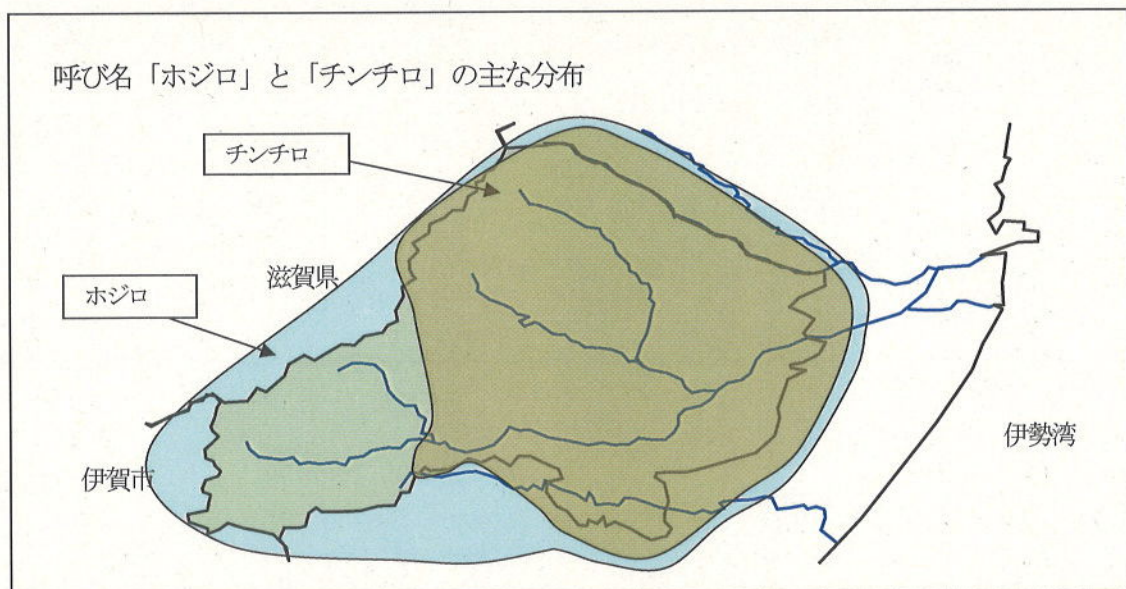
- ・ キンツボ イツツボ ニシュキン (: きんつぼ 五つぼ 二朱金)
- ・ チンチロ イツツノコーウダ (: チンチロ 五つの子産んだ)
- ・ チンチロ イツツボ ニーシュ (: チンチロ 五つぼ 二朱)

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 籠の中のホジロは手をかけて馴らさないことにはきれいな声をあげない。

キ その他

きれいな鳴き声をあげることから、昔はよく「こぼち」等と呼ばれた罾 (地面に穴を掘り、細い竹を編んだ簾を稲穂を吊り下げた竹で立てかけ、鳥がつつくと簾が落ちて地面の穴に閉じ込められる仕掛け) での捕獲対象となったという。



⑪ アオジ (ホオジロ科)

ア 対象種

アオジ

イ 生息情報

ほぼ全集落に飛来したようであるが、はっきりとしない。

ウ 採録した呼び名

- ・ 体色から アオスズメ、アオチ、アオチョ、アオンチョ、アホンチョ
- ・ 生息場所・鳴き声から ヤブチン、ヤブッチョ、ヤブドリ
- ※ ヤブスズメ



エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの林などで見かけられる小型の冬の渡り鳥であり、当時は郡内の広い範囲に飛来したようである。

スズメによく似た大きさで、黄緑色がかった体色が特徴的な小鳥であるが、住民にはあまり認識されていなかった。

本種の呼び名としては、「アオンチョ」や「ヤブチン」をはじめ計8種を採録した。

採録集落は少ないものの郡内の広い範囲で体色や小型の鳥に由来し「アオンチョ」と呼ばれたほか、一部の集落で「アオスズメ」や「アオチョ」がみられた。

その他、藪でチンチン鳴く鳥として「ヤブチン」に加え、「ヤブッチョ」、「ヤブドリ」を採録し体色や鳴き声等の聴き取り内容から本種として整理をしたが、これらの呼び名は具体的な種別がはっきりしない場合が多く、他の小鳥を含める場合もあったものとみられる一方、スズメとして整理した「ヤブスズメ」は本種を含む可能性が残る。

オ 聞きなし

一部の集落で聞きなしを採録した。

- ・ ジュジュ ・ チチンチチン
- ・ チッチ ・ チンチン



⑫ ジョウビタキ (ヒタキ科)

ア 対象種

ジョウビタキ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 目立つ紋から モンツキ、モンツキドリ

エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの林などで見かけられる小型の冬の渡り鳥であり、当時は郡内全集落に飛来したようである。

橙色の胴とともに、羽に目立つ白い紋が特徴的な小鳥として住民に一定の認識がみられた。

本種の呼び名としては、「モンツキ」と「モンツキドリ」の計2種を採録した。

ほぼ郡内全域で羽に白い紋が付いているように見えること由来し「モンツキ」又は「モンツキドリ」と呼ばれ、他の呼び名はみられなかった。

オ その他

同様の紋があるキビタキについても、本種と同様に呼ばれたものとみられる。



⑬ ツグミ (ヒタキ科)

ア 対象種

ツグミ

イ 生息情報

ほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) ツグミ
- ・ その他 ツムギ、ツムギドリ

エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの林や畑地などで見かけられるという冬の渡り鳥であり、当時はほぼ郡内全集落に飛来したようである。

生息状況は目立つ特徴がないためか伝聞のものが多く、身近な鳥として住民にあまり認識されていなかった。

本種の呼び名としては、「ツグミ」や「ツムギ」をはじめ計3種を採録した。

ほぼ郡内全域で「ツムギ」と呼ばれたほか、一部の集落で「ツグミ」がみられた。

住民の具体的な認識は少ないものの、「ツムギ」という呼び名は一般的であった。



⑭ オオルリ (ヒタキ科)

ア 対象種

オオルリ

イ 生息情報

山間の集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 体色から ルリ、ルリドリ

エ 生息及び呼び名の状況

山中の木立で見かけられるという夏の渡り鳥であり、現在でも山林に飛来するという。

背から尾にかけての鮮やかな青色と腹部の白色が特徴的な鳥であるが、比較的深い山林に生息することから山奥で仕事をしている人を除き一般の住民にはほとんど認識されていなかった。

本種の呼び名としては、「ルリ」と「ルリドリ」の計2種を採録した。

猟や炭焼き等の山仕事で山によく入った山辺の集落の人々を中心に、青い体色に由来し「ルリ」や「ルリドリ」と呼ばれたほか、平野部の集落では生息情報とともにほとんど呼び名はみられなかった。

オ 聞きなし

一部の集落で聞きなしを採録した。

- ・ ルリルリルリルリ

カ 関係する伝承・諺等

オオルリは胸が白いので、「卵をぶら下げている」と言った。

キ その他

本地域では生息数が少ないという話があったコルリ (スズメ目ヒタキ科) も同様に呼ばれたものとみられる。



⑮ カワガラス (カワガラス科)

ア 対象種

カワガラス

イ 生息情報

川沿いの多くの集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 カワガラス

エ 生息及び呼び名の状況

主として岩場の多い溪流近くを生息地とするというカラスに似た黒い体色の留鳥である。

上流部を除き、実際に本種を目にした人は少ないものの、ほぼ川沿いの集落で生息情報がみられた。ただ、その回答内容は伝聞のものが多く、生息状況としてははっきりとしない面が残るとともに、住民にはあまり認識されていない鳥であった。

現在では姿を見かけることはほとんどないという。

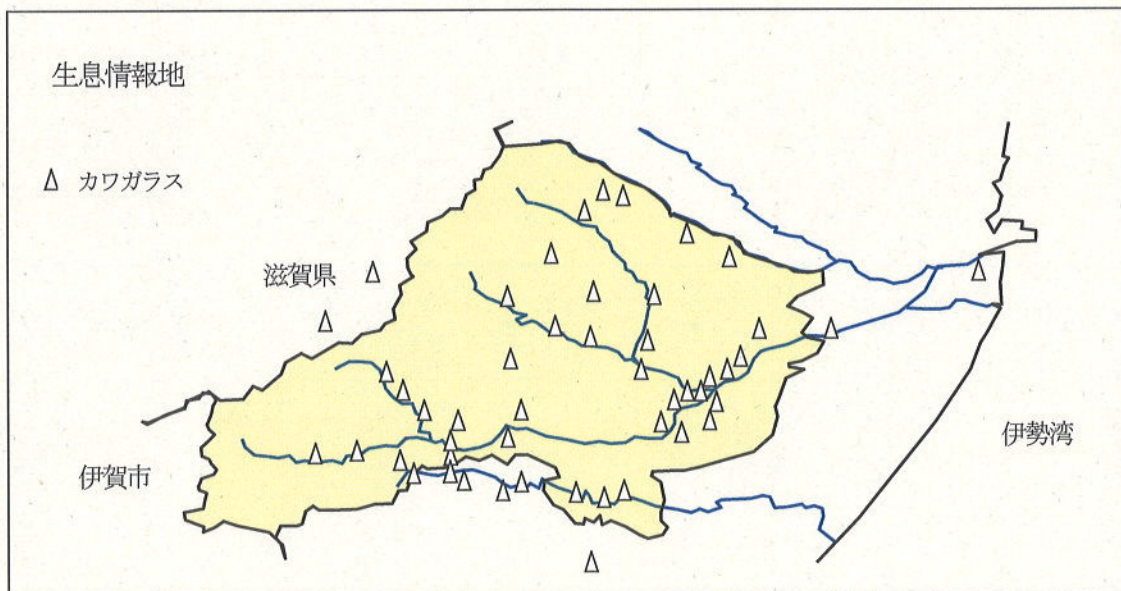
本種の呼び名としては、「カワガラス」の1種を採録した。

川の本支流沿いの集落を中心にほぼ郡内全域で「カワガラス」と呼ばれたほか、他の呼び名はみられなかった。

オ 聞きなし

一部の集落で次の聞きなしを採録した。

- ・ チュンチュン



⑩ カラス (カラス科)

ア 対象種

ハシブトガラス、ハシボソガラス

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 カラス
- ・ 鳴き声から (幼児向け) カーカ、カーカー
- ・ 群れた状態 ヒヤツパガラス、センバガラス
- ・ 山と浜を行き来 アサガラス、ハマガラス、ハマノカラス、ヤマガラス
- ・ その他 コーモケガラス、ヒトコエガラス



エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの林などで見かけられ特徴的な鳴き声をあげる留鳥であり、現在も郡内全集落に生息する。

全身が黒い体色でカーカーといった目立つ甲高い鳴き方をする身近な鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「カラス」や「カーカー」をはじめ計 11 種を採録した。

郡内全域で一般的な呼び名である「カラス」と呼ばれたほか、身近で目立つ鳥であったこと等から多くの状態での呼び名がみられ、幼児向けには鳴き声に由来し「カーカ」や「カーカー」、群れた状態では「ヒヤツパガラス」や「センバガラス」と呼ばれ、また当時は早朝には浜の方へ、夕方には埴 (ねぐら) とする山の方へ集団で飛んで行ったという話が全域でみられ、そうしたカラスは「ハマガラス」、「ヤマガラス」等と呼ばれた。

その他、カーとひと声だけあげる「ヒトコエガラス」、人の子が生まれたことを知らせる「コーモケガラス」、また朝に飛ぶ「アサガラス」が一部の集落でみられた。

オ 聞きなし

- ・ アカンアカン
- ・ アホーアホー
- ・ カーカー
- ・ ガーガー
- ・ カワイーカワイー
- ・ グアグア
- ・ ハヨシネーハヨシネー

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「カラスが水浴びすると雨 (が近い)」
- ・ 「カラスが伸ばして鳴くと良くないことが起こる。短く切って鳴くと良いことが起こる」
- ・ 「カラスは地下 7 軒下まで見通しがきく」



⑩ カケス (カラス科)

ア 対象種

カケス

イ 生息情報

主として山辺の集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 地方名 カシドリ、カチドリ

エ 生息及び呼び名の状況

山辺の林などで見かけられるという留鳥であり、山林の広がる広い範囲に生息していたとみられる。

ハト程度大きさで、羽の一部が美しい青や白、黒色の特徴を持つ鳥であるが、猟師等を除き一般の住民にはほとんど認識されていなかった。

本種の呼び名としては、「カシドリ」と「カチドリ」の計2種を採録した。

山辺の集落を中心に広く「カシドリ」と呼ばれたほか、一部の集落で「カチドリ」がみられた。

当時は狩猟鳥であったようで、呼び名は元猟師やその関係者からのものが多く、一般の住民からの採録は少なかった。

オ 聞きなし

一部の集落で聞きなしを採録した。

- ・ ガーガー ・ ギャーギャー

